



衛生動物だより

No. 56

チャタテムシ

今年の8月から9月にかけて、学校から保健センターにチャタテムシに関する相談が2件ありました。1件目は、夏期休暇のために1週間部屋を締め切っておいたところ窓際に発生しており、部屋の書類や布にも虫がついていたとのことでした。2件目は1件目とは別の学校で、倉庫のトイレットペーパーや段ボールに付着していたものです。

どちらも屋内での発生していたこと、大量の小さな虫であったこと及び紙等に好んで付着していたことからチャタテムシ類であることが疑われました。

チャタテムシについて

チャタテムシ目には、野外に住む種と屋内に住む種があります。屋内種のうち、コナチャタテ科とコチャタテ科のチャタテムシが家屋害虫として問題になります。これらは共に体長約1mmの小さな虫です(図1)が、大量に発生して気持ちが悪くといった理由で相談があります。



図1: ヒラタチャタテ成虫
(コナチャタテ科)

チャタテムシによる被害

屋内害虫としてのチャタテムシは、畳、押入れ、食物の貯蔵庫等に潜み、カビや乾物等を食べています。穀物貯蔵庫で大発生し、大きな被害を引き起こすこともあります。このほか、新築の高層住宅で発生する例も増えています。これは、建物が十分に乾燥しておらず気密性も高いため多湿になり、屋内に結露やカビが発生しやすくなるためです。結果として、チャタテムシの絶好の生息環境になると考えられます。



図2: 同触角

チャタテムシの防除

チャタテムシ類は屋外からの荷物等に付着して侵入することが多いため、屋内だけで完全な防除を行うことは困難です。

この虫は乾燥に弱いことから、部屋の換気、畳の天日乾燥、食品保管の引出しや箱の天日干しが最も効果的です。

畳の天日乾燥ができない場合は、低毒性有機リン殺虫剤等を畳の裏や縁にスプレーし、立て掛けて乾燥させるとよいでしょう。

カビを食べている場合が多いので、同時にカビ対策を行います。予防としては、発生源となるカビを生やさないこと及びカビの生えた食品等を除去することが挙げられます。



図3: 同前胸背板

種の鑑別

科より下の分類については、ガムクロール封入標本を作って顕微鏡下で観察しなくてはなりません。触角の節の数や前胸背板の肩剛毛の長さ、数を参考に鑑別します(図2, 3)。